

# 勤儉尚武 勤儉尚武

Vol.28  
2010年8月

勤儉尚武 27号以来、8ヶ月ぶりに28号に取り組むことができました。この8ヶ月の間に、順心会合気道にとっても私にとっても大きなイベントがいくつもありました。

- 1月：寒修行
- 2月：一般集中稽古
- 3月：オーストラリアで合気道の指導
- 4月：昇級審査
- 5月：国際合気道フレンドシップセミナー
- 7月：子供合宿・一般集中稽古
- 8月：昇級審査

昨年から5月の国際合気道フレンドシップセミナーまでは、事務手続きなどで多忙を極め、その後も多忙な日々が続いたため、勤儉尚武の発行まで手が回らなかったのが実情です。そこで、この8ヶ月間の出来事を振り返りながら筆を進めたいと思います。

## 【寒修行】1月18日～22日



恒例の寒修行は、旧暦の「大寒」を含む1週間行われ、冷蔵庫より低い気温の道場の窓を全開し、上半身裸で正座し、1時間呼吸法を行うものです。心身を鍛える修行の一環です。来年の寒修行も多くの方の参加を期待しております。



呼吸法の後はお待ちかね「善哉タイム」で、暖をとって無事終了しました。

【一般集中稽古】2月20日～21日



4月に行われる昇級・段審査を目指して集中稽古が行われました。2日間一つの目標に向かって仲間と過ごす有意義な時間でした。

【オーストラリアでの指導】3月13～16日



子供クラスの指導を終えると、New Port 道場の先生である、ジェスが「ちょっとプレゼントがあるから、外に出て欲しい」と言うので、彼の後をついて行くと、子供クラスの「金持ち父さん」がマセラッティの新車に乗っているから、助手席に乗って少しドライブしてもらうように頼んだと言うのです。私がスポーツカーが好きだということを知っていたので、予め頼んでくれたそうです。まさにスーパーカーの名にふさわしい車でした。

メルボルンで指導を始めて3年になります。その間毎年2回指導に訪れていますので、現地の人々はとてもフレンドリーで、心からもてなしてくれます。来年5月のゴールデンウィークには有志でオーストラリアに『合気道&ワイナリーツアー』を計画しています。年末までに募集をしますので、興味のある方は是非応募してください。

【昇級・段審査】

4月4日、今年度最初の昇級審査会に多くの会員が挑戦してくれました。4ヶ月前と比べると、とても上手くなっていて、驚きました。

4月29日、弘道会合気道の大島先生をお招きして、初段・弐段の審査が行われました。初段に高校生の宮田幸平君と米田一貴君が10年間の修行の成果を見せてくれました。また、竹田和史、山本あゆみ、馬場あや各氏が、二段に挑戦されました。目標に向かって、懸命に努力された事がはっきりと現れた審査でした。おめでとうございます！



【国際合気道フレンドシップセミナー】

5月2日～4日



「4月30日のトップ会談」



「“第二道場”で外国人の日本酒テイasting会」



「集合写真」



「池の坊松阪支部の講師による生け花実演」



「着付けの体験」



「イタリアンレストラン“カピタノ”にて」

「和食処実百樹にて」



「宿泊していたホテルにて」

3日間のセミナーも無事終了し、参加者の半分以上に当たる20名が寺社巡りバスツアーに参加しました。

- 5月4日：二見浦
- 5月5日：伊勢神宮～高野山
- 5月6日：高野山
- 5月7日：奈良
- 5月8日：京都



「和食処実百樹」には定休日にもかかわらず、半年以上前から準備し、貸し切りで歓迎会のお手伝いをさせていただきました。



「畳に座るのが苦手な Andrew」





「2m近くあるBig Johnにはあぐらも難しい」



「バス旅行最終日」



「高野山遍照光院で写沸」



「舞妓さんと一緒に」

### 『海外からの御礼の便り』

#### 1. イタリアのフランコ

I am back to Bologna. (ボローニャにもどりました)  
I would like to thank you for the beautiful event you have organized. (素晴らしいイベントに感謝します)

The seminar has been very instructive as well as the tour to Ise, Koyasan, Nara and Kyoto. (伊勢、高野山、奈良、京都への旅行と同様、セミナーもとてもためになりました。)

As you use to say "I had a lot of fun". (貴方が言っていた通り「楽しかったです」)

After Kyoto, so a wonderful city, I have visited the Eihei-ji temple. (とても美しい京都で別れた後、永平寺を訪ねました)

Japan has won my heart. (日本は私の心を捉えた！)  
Japanese people are so kind and noble and his tradition and culture are so unique!

(日本人はとても親切で、高貴で伝統と文化はとてもユニークです)

I will certainly come back.

(必ず、また日本に来ます)

#### 2. オーストラリアのロブ

Dear Yoshi

Arigato - Arigato - Arigato (有難うございました)

Thank you very much for organizing such a fantastic Aikido and Cultural experience. (あのような素晴らしい合気道と文化体験に感謝です)

I enjoyed every moment of my time and loved Japan, I feel it is like my home.

(日本に居る間、存分に楽しみました、そして日本をとても気に入りました。日本は我が家のようなでした)

Yoshi, the effort that you made and the attention to detail was excellent, no one else could have done it better.

(貴方の努力と細部にわたる氣遣いは他の誰にも出来ないほど素晴らしかった)

I thought the Aikido section of the trip was amazing and it was so very good to learn from the Sensei's but even more important for me was the ability to be able to train with your students. (合氣道の部は驚くほど素晴らしかったし、先生方から直接教わる事はとても良かったが、もっと良かった事は、貴方のお弟子さんたちと稽古が出来たことです)

I found every one to be very respectful and genuine people. A special mention for Morishita who drove us around and showed kindness and friendship. (皆さんが、大変丁寧な態度の方で偽りのない純粋な方々だと思いました)

The tour was the best it could have been and I enjoyed every moment. (バス旅行はこれまでで一番良かったし、一瞬一瞬をととても楽しみました)

I feel it has helped me to grow spiritually having been in such special places with the energy of Shinto and Buddhism.

(神道と仏教のエネルギーを持った特別な場所で過ごしたので、氣を高める事ができたと思います)

I loved staying at the Ryokan and especially at the temple. (旅館や特にお寺に泊まる事が大変気に入りました)

I would also like to say that I felt a good connection with Oshima sensei and like him a lot as well as having a great respect for his Aikido style and teaching. (大島先生と良い関係が築けたと思うし、先生の合氣道と教え方が気に入りました)

Yoshi, thank you very much for looking after my special needs as a vegetarian for the whole trip. I never had to worry about my food and that was very much appreciated. (旅行中、ベジタリアンとしての特別な配慮をしてくれて本当に感謝しています)

I can only speak for myself but I can tell you that every one else I spoke to had very much enjoyed the trip and loved it as much as I did,

(参加者全てが異口同音に大変楽しい旅だったと言っています)

Love and Respect  
(愛と敬意をこめて)

### 3. オーストラリアのサーシャ

Hi Yoshi,

We are all still under a wonderful spell after our Japan trip: life is now brighter, so many good

memories are alive, and we are sifting through thousands of photos everyone took on in Japan.

(私たちは日本への旅行に今もまだ魅了されています; 生活が以前より明るくなり、たくさんの素敵な思い出ですが、今も鮮明に蘇って来ます。そして、日本で各自が撮った何千枚もの写真を選別しています)

Thank you SO MUCH for the fabulous holiday trip that you have organized for us! (私たちのために素晴らしい休暇旅行を企画してくれた事に感謝しています)

You did such an excellent job in showing us the best of Japan, all my family and I (as I know all Melbourne aikido people on a trip and Zina) enjoyed every moment of it! (日本の最も良い場所を案内してくれましたと思います。私の家族全員とメルボルン合氣道の全ての人々とジーナは一瞬一瞬をととても楽しみました。)

Best wishes,

その他、数多くの感謝のメールが届きました。そして、今回日本に来る事ができなかった人たちが、とても残念がっていると言っています。

このイベントの企画・運営に際して、事務手続きなどとても煩雑で、仕事をしながら稽古が毎日ある中では、心身ともに限界に達しておりました。実は、セミナーの一週間ほど前に体調を崩し、一日仕事を休んでしまいましたが、自分が動かなければ多くの人々に迷惑がかかると思い、無理を押して運営に努力しました。寺社巡りバスツアー後も体調が回復せず、5月一杯体調不良が続きました。

これほど大変なことになるとは想像もしていませんでしたので、「もう二度とこのようなことはしない」と思いました。でも、これほど多くの世界中の方々に喜んでいただけるなら、これから何度でもしようと、思い直し、新たな決心をしました。

弘道会の大島先生と唯心会の丸山先生に承諾を得て、二～三年後に「第二回国際合氣道友好セミナー」を開催する事になりました。

このような事情を皆様にご理解していただき、次回開催時には皆様のお力をお借りしたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。また、このような貴重な機会に参加された皆様は、幸運であり多くのことを学ばれたと思うと同時に、参加できなかった方は本当に貴重な体験を逃したと思います。残念の一言です。今回は、子供クラスの会員も含め、一人でも多くの方にご参加いただけ

るよう準備を進めてまいりたいと思いますので、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

また、これから人的交流を進めて生きたいと思っております。まだ、決定はしていませんが、オーストラリアからは、メルボルンのコリンが年末から三ヶ月ほど私の家に来たいと言っております。こちらからも、小グループで、来年のゴールデンウィークにブリスベン、シドニー、メルボルンを訪れる『合気道&ワイナリーツアー』を企画する予定です。人生は一度きりです！参加する余裕のある方は、是非参加してください。詳細は、年末までにご案内します。

### 【子供合宿】



【奥伊勢フォレストピアのバーベキュー】



【筋 ト レ】



【宮川の清流で遊ぶ】



【かき氷でオーバーヒートした身体を冷す】

子供合宿の目的は、6時間に及ぶ稽古を通して技の習得が第一ですが、それだけではありません。兄弟姉妹が少なくなり、核家族化が進んだ現代社会では身に付きにくい「人との関わり方」を身に付けることも大きな目標の一つです。

ボランティアの有段者の方に見守られながら、わがままの通らない環境で子ども同士がぶつかり合いながら人との関わり方を身に付けていくのです。

学習塾などで忙しい子どもたちですが、大自然に囲まれた環境の中で、合気道の仲間と過ごす時間は、大人が考える以上に有意義な時間ではないでしょうか。

次回は、もっと多くの方の参加をお待ちしております。



# 「継続は力なり！」

前述の「国際合気道友好セミナー」を振り返って、「継続は力なり！」という言葉を出しました。

大学生時代に、大阪にある合気道の町道場の門を叩いて30数年間、合気道一筋の人生でした。もちろん、仕事をしながらの修行ですので、仏教で言えば出家僧ではなく在家僧ということが出来ます。

学生時代から西洋の文化に憧れて、大学では英文学を専攻し、英語の教師になりました。同時に、強くなりたいという単純な気持ちから合気道を始めたのですが、一見相反する事をやっているように見えますが、実はそうではなかったのです。

地元に戻って、教鞭をとる傍ら、少人数ながら合気道教室を始めました。当時は松阪に武道館もワークセンターもなく、場所探しから苦労しました。最初は、荒廃した神社をお借りして始めたのですが、取り壊しが決まって、また場所探しから始めなければなりませんでした。そんな時、現三重県知事さん（当時衆議院議員）の事務所の一角をお借りして、再出発しました。

ジョイントマットを毎回車で運んでの稽古、勤務地まで電車で2時間という時間的制約の中、生徒数は増えず、生徒数が1人という時もありました。

そんな中、外国語指導助手（ALT）という制度が日本ではじまり、外国人が三重県にも多く住むようになりました。英語に憧れを持ち、英語の運用能力を磨く事を常に心がけていた私にとっては、絶好のチャンスでした。日本に来る外国人は、少なからず日本文化に興味を持っているはずだと信じて、20年ほど前からALTのオリエンテーションに、当時高校生だった弟子の一人（武道館教室に来ている蓮斗君のお父さん）を連れて、会場までジョイントマットを持参して、演武を5年程続けました。

30名のうち1～2人は稽古に来るよう

になり、少しずつ彼らの間で知名度が上がっていきました。ある年は、15名ほどが久居教室に現れ、体験を申し出てくれましたが、なかなか定着せず、2～3人の外国人が定期的に稽古に来ていました。

道場に外国人が居れば、稽古に来る日本人の子どもたちも外国に興味を持ち、英語を話せるようになりたいと思ってくれたらいいと思っていたので、「いつかは、外国人の生徒と日本人の生徒が道場で違和感なく稽古できたらいいな」と思いました。

それから10年後の2000年3月に生徒の引率で訪れた、オーストラリアのアデレードという町でニックという高校教師に出会ったことで、運命が拓けました。彼の甥が合気道を習っているというので、その道場を訪れました。それがご縁で、2004年に初めて海外でセミナーを開催しました。2年後の2006年には大島先生と2人で再びアデレードを訪れてセミナーを開催しました。翌2007年には、現在の学校で国際交流の仕事を担当するようになり、生徒引率でメルボルンを訪ねました。予め唯心会合気道のメルボルンにある道場の責任者に「一緒に稽古をしたい」というメールを送って、いくつかの道場を訪ねました。稽古で私が教えると、皆、セミナーを開催したいなら手伝うといってくれましたので、その年の7月にブリスベンとメルボルンでセミナーの開催が実現しました。翌2008年と2009年も春・夏2回セミナーを開催してもらいました。2009年にはメルボルンでのセミナーの後、シドニーで休暇を楽しもうと思っていたら、誰かが私がシドニーに行く事をシドニーの指導者に教えたらしく、携帯電話に連絡があり、結局休暇ではなく、稽古になってしまいました。

この3年間で、オーストラリアの唯心会の人々と良好な人間関係を築く事が出来、「国際合気道フレンドシップセミナー」の実現につながったのです。

「継続は力なり！」です。地道な努力の積み重ねが、成功の秘訣だと思います。



# 真剣勝負

今世間を騒がしている話題の一つに、「百歳以上行方不明」というのがありますが、それは長寿社会の日本で、核家族化や地域コミュニティの崩壊など、高齢者をとりまく現実を浮き彫りにしています。

100歳以上に限定していますが、仮に90歳以上と、年齢を下げれば問題は更に深刻かもしれません。今年1月に「無縁社会」というNHKの特別番組が放送されました。内容は、現在の日本では身元が不明であったり、遺族がいても遺体の引取りを拒否されて、誰にも見取られずに死亡する人が、一年間で3万2千人にも及ぶそうです。

この二つの事には重なる部分が多いと思います。戦前の日本は儒教思想が大きな役割を果たしていました。もちろん儒教思想全てが良いというわけではありませんが、日本がかつて持っていたが今は失ってしまった良い点の多くは、儒教思想に基づいた物が多くあります。上記の番組でも紹介されていたのですが、日本は「三つの絆」が急速に失われています。その「三つの絆」は、故郷との「地縁」、家族との「血縁」、会社との「社縁」を指します。

「地縁」：核家族化が進み、地域の繋がりが薄れ、独居老人も沢山います。更に少子化が地域の祭りなどの形骸化に拍車をかけ、地域の結束が更に薄れています。

「血縁」：これも核家族化で、血縁関係があっても、血縁が事実上薄れていき、一族が疎遠になっています。法事などもごく近い関係の人にだけ案内する傾向があります。

「社縁」：終身雇用制度が崩れ、能力主義が社会に蔓延しています。効率や利益を最優先すれば当然の発想だと言えるでしょう。その延長線上に派遣社員やパートの人たちの増加があ

り、「社縁」が薄れています。

これはいずれをとっても、儒教思想の対極にあるものです。そういう社会を作ったのは、「人」です。社会を構成する「人」をそのように育てた結果なのです。

まず、目上の者を敬うということを小さい頃から教えていた戦前の教育とは異なり、現在の教育現場では、以前にも触れましたが、モンスター・ペアレンツの台頭が憂慮されます。私が子供の頃は、先生は絶対的な存在で、怖いものでした。私が教師になった30年ほど前はまだ、親たちは先生の事を大切にしてくれました。そして、今は先生の揚げ足を取って学校に「理不尽な要求」をする親まで出現してきました。そのような親を作ったのは、その人たちの親の世代であり、その親の世代を作ったのは、更にその親の世代です。つまり、全ては教育や家族・地域の力の衰退が原因だと思います。

7月末に、生徒の引率で韓国に行ってきましたが、事前学習で韓国人を先生としてお招きしました。現在は日本人と結婚され、伊勢市にお住まいですが、韓国生まれの韓国育ちの先生です。韓国語での簡単な挨拶を勉強している時に、生徒の一人がプリントを先生に手渡すのを見て、「韓国では、先生のほうを見て、礼をしながら両手で手渡す」事を教えられました。「日本も昔はそうだったでしょう」「韓国の学校と交流するのに、それでは恥ずかしいよ」と大きな声できっぱりとおっしゃいました。不意を突かれた思いでした。韓国の学校に行くと、確かに先生に対しては敬意が払われていましたし、レストランでも、予期していなかったのですが、生徒は床に座って焼肉を食べていたのですが、先生はテーブルに食事が準備され、一段高い所に座られました。同行したもう一人の引率教諭に「年寄りには膝が悪いから、テーブル席なんだよ」と冗談を言っていると、料理もはるかに上等のものが出されました。今ではありえないことですが、私が新米教師の頃はよく見かけられた風景でした。

更に、首都ソウル市内にはほとんど大型ス

一パーマーケットはなく、大部分の町にはまだ小規模の商店が点在しています。地域の結束力は今も健在でした。

[2008年の合計特殊出生率]

(一人の女性が一生に生む子供の数)

日本が1.27人で190位

韓国は1.22人で最下位(193位)

[2010年の平均寿命]

(あまり当てになりませんが)

日本が83歳で首位

韓国は80歳で17位

上記の2点だけで比較するのは、偏っているかもしれませんが、両国ともに少子高齢社会であることは、一目瞭然です。韓国にも問題点は沢山ありますが、今論じているテーマだけに焦点を当てれば、人を育てる方法の違いが大きいウェイトを締めているような気がします。

儒教思想が薄れてきてはいますが、まだその影響ががまだ色濃く残っている韓国では、目下の者が目上の者に敬意を払う事は当然であり、子どもが親の面倒を見るのもごく当たり前です。かつての日本もそうでした。

戦前および昭和30年代までの日本は貧しかった故に、子どもが親の手伝いをし、親を楽にしてやりたいと思うのが普通でしたが、現在は親が子どもを経済的に楽にしてやろうと経済的援助をする始末です。経済的・意識的流れがかつては「子→親」であったのが、現在は「親→子」に変わって来ています。親が子を思う気持ちはよくわかりますし、当然と思いますが、だからこそ一日も早く自立させるために、色々な意味で厳しく育てる必要があると思います。

子どもがお金や時間を使って親の面倒を見るという意識が染み付いておらず、親も自分の財産と才覚で死ぬまで暮らしていくと考えています。

戦後世代が高齢化していくに従って、また年金の不正受給という観点から「消える高齢者」は増えるかもしれません。このような事は決して許されるべきことではないでしょ

う。先人たちの努力によって現在の日本の繁栄があり、祖先があって自分がこの世に存在する事を自覚し、感謝する事が必要だと思えます。

【儒教思想】

江戸時代に武家の教育として広まった儒教の教え(孔子の教え)は、「仁義礼智信」が根幹にあります。

**仁** :人を思いやること。孔子は仁を最高の徳目としていた。

**義** :利欲に囚われず、すべきことをすること。

**礼** :仁を具体的な行動として、表したもの。人間の上下関係で守るべきことを意味する。

**智** :学問に励む

**信** :言明をたがえないこと、真実を告げること、約束を守ること、誠実であること。

何も難しいことを言っているわけではありません。人間として当然備えるべき資質だと言えると思います。2,000年以上前の思想ですが、現代に生きる我々も大いに学ぶべきことだと思います。以前にもご紹介しました新渡戸稲造著『武士道』もこの精神が基本になっています。

「武道」の「道」とは心の在り方や生き方の指針という意味で、結果やテクニックという目に見えるものよりも、その背景にある目に見えないものへの敬意です。古来、日本ではこのような「道」を大切する風土が長年にわたって存在してきましたが、近年米国の成果主義、個人主義、物質主義といった文化に支配され、日本でも目に見えるもの、数値化されるものへの思考が重視されて、日本人らしさや人間らしさを失い、心の空洞が日本全体に起きています。

そのような目に見えない心の在り方に価値を重んじ、「道」としてそれを磨いていくことを使命とする日本古来の武道こそ、今の混迷した日本を救うのではないのでしょうか。大人も子供も「道」を求めて修行に励みたいものです。